

軍艦明石製造一件

1534

參謀部長 (印)

第一課長 (印)

上事

廿六年三月十日

主務

校合

發行

三月五日

立案者

大臣 加次官 (印)

第二局長 (印)

第三局長 (印)

第三課長 (印)

第二課長 (印)

第一課長 (印)

第三課長 (印)

訓令案

東廿六年度ヨリ巡洋艦一隻其府造船部ニ於テ製造セシムルキ
ニ付乙号巡洋艦計画中別紙ノ通変更シ其他ニ都テ同艦ト同
様ノ計画ニ依リ製造費豫算該切期限取調申出ヘシ
但詳細計画ニ於テ變更ノ意見アリハ申出ヘシ

官房第六六号

五

五

1535

海軍大臣

明治三十六年三月十五日

横濱賀鎮守府司令長官

官房第六六一号之二

来廿六年度より巡洋艦一隻製造ノ義別紙ノ通横濱賀鎮守府、訓令ハ条此旨心得レシ

明治二十六年三月十五日 海軍大臣

造兵廠長

理由

乙号巡洋艦計画中別紙通變更ヲ留スルハ前部、於テハ水雷砲射撃際シ波浪ノ爲メ偏斜ノ度ヲ增加スルノ恐アルハ右部ニ移ス
コト、致度リ也

乙号巡洋艦計画中前部中甲板水雷発射管二門ヲ後部同甲板
隔壁第十六番ト第二十五番トノ間ニ移スコト

海

軍

1537

中央會計監督官代
参謀部長 中津田

主事



校合

淨寫



五月九日

發信



天
年
月
日

主務

立案者

第三課長

第一課長

第二課長

第三課長

第四課長



陸軍大臣

次官



指令案

横鎮第一二三二号、三三六年度起業丙号巡洋艦製造費豫
算及該切期限迄、改造意見書中四十七位米速射砲二門
増設ノ項、除キ認許ノ条製造ノ者、子ス(ニ)

但大砲、配置ハ乙号巡洋艦ノ組ニナス(ニ)

官房三二八号

每

頁

1538

明治廿六年五月九日

洋

軍

1539

二十六年度起工巡洋艦制衣造費豫算及ヒ

竣工期限書提出并改造ノ件ニ付上申

亦六年度ヨリ巡洋艦老復製衣造セシメラルヘキニ依リ製

造費豫算及竣工期限取調可申出官房第六

六號御達ニ依リ別紙取調提出仕候且ツ同艦ニ

號巡洋艦同様制衣造方御達ニ候得共別紙改造

意見書通改造相成候方可然存候尤モ制衣造

年限並製衣造費豫算等ニ更ニ差異無ク候

依リ別紙意見書及理由書並圖面相添此

取仰高裁候也

明治二十六年四月七日

奉 宣

海 目

横須賀鎮守府司令長官伊東社

海軍大臣伊藤西郷侯殿



1541

巡洋艦制衣造費及竣功期限豫定書

一金壹百參萬四千八百圓

巡洋艦制衣造費

内

金五拾四萬五千圓

船体部

内

金拾八萬八千五百圓

工費

金參拾五萬六千五百圓

材料費

金四拾五萬八千圓

機関部

内

金拾參萬貳千五百圓

工費

金參拾貳萬五千五百圓

材料費

金貳萬九千八百圓

定備豫備品費

金貳千圓

進水式費

工事日子

五十年十一月

制表造費支出始メヨリ船脊骨据附迄 一年二月

船脊骨据附ヨリ進水迄 二年三月

進水ヨリ竣切引渡迄 一年八月

改造意見書

(一) 船体樞要尺度ヲ左ノ如ク改ムル

西垂線間ノ長サ

最大幅 (助ノ外面)

片均シク

別紙圖面ハ第三局カニ添テ捺納

ヨリテテテテテテテ

九〇、〇〇

未定

九三、五〇

乙号巡洋艦

一一、七〇

一一、二〇

四、八〇

四、七〇

五、三〇

五、〇〇

二、千、八、百、噸

二、千、七、百、噸

十、九、五、節

十、九、五、節

十、七、五、節

六十突窓トナス

心

形トナス

設クル

1544
1545

改造意思見書

(一) 船体樞要尺度ヲ左ノ如ク改ムル

西垂線間ノ長サ

九〇、〇〇

米突

最大幅 (助ノ外面)

一二、七〇

平均吃水

四、八〇

最大吃水

五、三〇

排水量

二千八百噸

最大速力

(強迫通風)

十九、五節

全

(尋常通風)

十七、五節

(二) 二十五珊砲十二珊砲共弾丸壯衣薬ヲ百六十發宛トナス

(三) 四十七密米速射砲二門ヲ増設スル

(四) ロコモチノブ形汽罐ヲ改メシングルエンジン形トナス

(五) フォクスルノプープ間ノ通路ヲ兩舷側ニ設クル

1544
1545

乙号巡洋艦

九三、五〇

一二、二〇

四、七〇

五、〇〇

二千七百噸

二十海里

(六) 端船、釣方ヲ別紙図面、通改スル

(七) 檣ヲ木製カボリトシ、檣樓ヲ廢シ、機関砲ヲアウスル或ハ上甲

板通貫ノ位置ニ備フル

(八) 其他倉庫等大畧ノ位置ヲ別紙図面、通ニ設置スル

改造理由書

第一 十五冊及十二冊砲ミ各三十發兵室ノ彈丸裝束亦ヲ増加
スルヲ得ヘシ（即チ在来百三十發兵室ノ丸百六十發兵室トナル）

第二 四十七密砲ニ門ヲ増設スルヲ得ヘシ

第三 最大速カラ十九節半トナスハシ号巡洋艦ニ比スレハ

緩穩ナル強迫通風ヲ用フルカ故ナリ尋常通風ニテハシ号
ト同様ノ速カミテ海上遠途ノ航行ニ之レニ優ルトモ
劣ル方ナキヲ期ス

第四 機関ハシ号ニ比スレハ稍堅牢ミテ汽罐、如キハ火床加
熱面共充方ノ面積ヲ与フ且ツ汽罐室、機械室、容積
廣ハケレハ實際取扱上大ナル便利ヲ与フ可シ

第五 檣樓ハ檣ニ比スレハ其大サ稍著シキヲ以テ船体未タ水
際ヨリ顯ハレサルニ當リ早ク已ニ敵船ニ認メラレ易キ恐レ

あり且ツ船体此ニ少ノ動揺ニテモ檣樓ノ動揺大ニシテ機関
 砲ノ發射極メテ困難ナルヲ以テ英國海軍等ニテハ巨大ノ
 巡洋艦トモ之ヲ全廢シタリ此ノ如キ理由ナレハ機関砲
 上甲板或ハフォックスル上滴員ノ場所ニ備付ケ檣樓ヲ廢
 スルヲ得可シ

第一課

第二課廻

第一課廻

第三課廻

横鎮第一二三二號ノ五

二十六年迄把業兩號巡洋艦改修ノ件并受
中六八四號以中六四號ニ對シテ左ニ述ベル及修ヤ

重要尺度ヲ變更スル理由

元來乙號ニ比スレハ堅牢ノ機關ヲ備ヘ其他機關亦
扱上ノ便利ヲ興フルノ精神ニ盡ク之從テ及尺度
ニテハ大ナル汽罐ヲ容ル、能ハス且ツ最大速力ヲ十九
半節トナス中ハ九十三、五米突ノ長サヲ要セス長サヲ減シ
幅深サヲ増ス中ハ彈丸裝束ヲ増置スル為メ聊カ排
水量ヲ増スモ船体ノ重量ノ增加ハ左程多カラズ
又丙號ニ在ツテハ少シク船舷ヲ高クスル方然ルベシ
思考セラレ隨テ同様ノメタセントリックハイトヲ保ツン
ニ幅ヲ廣クシ「E」メントオフ、イマニヤラ増スノ必要

受第六八四號ノ二

長

量

ヲ来シ其後其他細少ノ理由之ニアリト虽氏前述ノ
 要点ニシテ尺度変更ノ理由明瞭ナルベシト存ス
 四十七密米砲ヲ十二冊砲ノ直上ニ備フルハ不得策ノ
 様申越カレ其得共四十七密米砲ヲ十二冊砲々口ノ
 可ラストシテ新圖最モ妙キ所ニ偏フル必要ナルハ
 論ヲ俟タガハ義ト存ス而シテ十二冊何レノ方位ニ
 向フモ直上ニ砲口ヨリ最モ遠クシテ常ニ負
 後ニ位スルヲ以テ此点ヨリ曰フハ其ノ最良ノ
 位ト存ス又四十七密米砲ヲ發射スルニ當リ
 下部十二冊砲ノ爲ニ慮ラズノ慮ハ萬之ニナキ
 義ト存スレ其若シ船体堅牢上ノ点ニテハ御懸念
 ニ其レ上部四十七密米砲ヲ支フルニ充分堅牢ノ装
 置ヲ施スハ故ニ難事ニ無ク義ト確信致ス

依テ改造圖面通リ改正シ四十七密米砲二門ヲ増シ直
スル意見ニ有之候英王御軍ニテセンタユリオンエド
カ一等ニモ此装置ヲ施スハ左等ノ理由ニ因ルモノト
被存矣是又爲念申入矣
端舟釣方ヲ改ムル強ク必要ト云フ義ニ無之候ハ
共小蒸浪艇ヲテヒトレ釣ル方テリツシヲ用フル日
リ便利ナラント被存矣

明治二十六年四月二十日

伊東横濱砲台法を存するを以て

福島の海軍若手二局を設

一重要尺度ヲ變更スル理由ハ了解ス

悉ク

丙号巡洋艦改修ノ理由ハ紙ニ由リ直線準備

ヲ行フ事ヲ行フ事ニ由リニ向テ

ノ意見見事ハ改修ノ事ニ由リ

第二

各艦部

1553 1552

1221

ナセシ生カレテ
而シテ
其
距離
中
大
計
画
也

一重要尺度の變更之理由を詳し
説明し知らしむる事と認す

一在都研砲の四柱七番一直接準備

二の回音を能く受ける二向の

巨音短故配煙のあり一方、装射を

機動の速さ、敵陣への二向の

毀損を、忍び、其形をせしむる事

且下が一歩一直接準備、見せ給へ

不敵なる事、砲台の艦に、其中甲

板を甲板備へ、その距離を、敵艦

有、その思案、路に、その砲、

以て、その砲、比、其、

其、その、その、その、

配備の、その、その、

一、その、その、その、

其、その、その、その、

中軍司令部

其、その、その、

1553 1552

第二課廻

局長



第二課長



第一課長



第三課長



廿六年度起業兩号巡洋艦改正ノ意見横鎮第一二三号ノ三
ノ以テ御座居費等共ニ四提出有キ事少シ也第一重要尺度改正
要シ理由業和改訂第三四七箇米砲三門ヲ増スニ号巡
洋艦通りノ配置ニ便多キ難ク同砲ノ並下ニ十二冊砲ヲ
並ケル不備業リ存第六號冊釣方ノ改訂ノ必要モ存
在多急ノ面答云候事也

發付 濟州六年四月七日

局長

横鎮第一二三号巡洋艦

受第六八四號

海

軍

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

江

目

第一課

第二局長



第三課長



第一課長



丙号四号艦艇製造区長等別乗上通格海軍大臣官符
有、分、小、改、造、便、件、申、請、申、意、見、申、出、示
を、申、上、す。

一九一六年四月十日

參謀部長

海軍

1556

能
軍

第一項 料作要尺部以改正之何
か、趣書之也

第二夜 回音

第三夜

初、肥田田之乙字、道之乙字、
三行、
三十一冊ヲ終ラシメ、
三十二冊ヲ終ラシメ、
三十三冊ヲ終ラシメ、
三十四冊ヲ終ラシメ、
三十五冊ヲ終ラシメ、
三十六冊ヲ終ラシメ、
三十七冊ヲ終ラシメ、
三十八冊ヲ終ラシメ、
三十九冊ヲ終ラシメ、
四十冊ヲ終ラシメ、
四十一冊ヲ終ラシメ、
四十二冊ヲ終ラシメ、
四十三冊ヲ終ラシメ、
四十四冊ヲ終ラシメ、
四十五冊ヲ終ラシメ、
四十六冊ヲ終ラシメ、
四十七冊ヲ終ラシメ、
四十八冊ヲ終ラシメ、
四十九冊ヲ終ラシメ、
五十冊ヲ終ラシメ、

第四夜

回音

第五夜

回音

第六夜

回音

第七夜

回音

第八夜

回音

甲子年

九年四月

日

福嶋元吉向公長

1557

海軍省

供覽

軍令部長

横領第二六三九號



第三編 第一編



永録



丙郷巡洋艦工事報告

丙郷巡洋艦存自百石背骨材振付方施
り形自七五及報告也

明治三十七年一月一日

横領海軍省及海軍省長官



海軍省長官存自百石背骨材振付方施

海軍

次官

供覽

横領三十七三號

丙子年洋船通商目録進達

丙子年洋船通商諸商及目録調出候事船形造
修詳狀候直規則第三條三抄り此段進達仕候也

明治二年七月二十日

横領加賀鎮守府司長官島野尉重良

海軍大臣伯爵西郷從政殿

十月廿六日到着

南面より通商目録

及丙子年通商目録

海軍

丙種西洋船面面目録

船舳之部

一 側面最上平面諸横断面圖

志葉

一 線圖

志葉

一 最大中央横断面圖

志葉

一 諸甲板及舳艫平面圖

志葉

一 制取諸方法書

志丹

機関之部

一 機材位置圖

志葉

一 汽鐘位置圖

志葉

天

五

演 軍

一 前部汽鐘筒

電葉

一 中央汽鐘筒

電葉

一 後部汽鐘筒

電葉

一 製法方法書

電冊

一 高壓汽鐘筒

電葉

一 中壓汽鐘筒

電葉

一 低壓汽鐘筒

電葉

鷹

本書乙号巡洋艦製造書類ニリ

(山田甲行)

乙號及丙號巡洋艦ノ艦長室士官室士官次室准士官室
食堂水兵屯所其他必要ノ各室ニ通シ蒸氣暖炉設置ノ様
取計ヲヒ

明治二十八年二月十四日 海軍大臣

横須賀鎮守府司令長官

官房第四三八号

海 軍

寫

本書ニ号洋艦製造書類ニリ

乙辨及丙辨巡洋艦ニ裝備スヘキ水雷発射管ノ位置

ハ別紙圖面ノ通リ變更スヘシ

但詳細ノ義ハ造兵廠ト協議スヘシ

明治二十八年三月一日

大臣

横鎮司令長官宛

官房第六五七号

海

軍

山田印行

1563

主事



淨寫

校合

發行 18

五月二日



廿一年九月廿九日

主務

立案者

大臣

次官



軍務局長



第三課長



第二課長



第一課長



經理局長



第二課長



訓令案

丙号巡洋艦艦裝部其他木材一個所別海軍書一

通金屬製：改正不し

明治三十八年五月

二日

海軍大臣

横濱造船所司令長官友記

六五八

五

五

1564

六五八三

甲号報知艦艇管部其他木材ノ個所別表廢書ノ用

金屬製ニ改正スルニ

明治三十八年五月二日海軍大臣

兵部事務司局長友

海軍

1565

別件 批

丙号巡洋艦機装部金属製之改正ス（キ廉書

一防禦甲板以上

諸公室、寢室其他諸室諸倉庫ノ隔壁及棚板

昇降口、天窓其他諸甲板口

諸梯子 但階段ハ滑ラサニ方法ヲ用ユルコト

一舷門梯子 但手摺ハ木製又階段ハ滑ラサニ方法ヲ用ユルコト

一端舟受

一衣囊箱、衣囊棚 但懸掛箱用^蓋木製

一食器棚

一手箱

一衣服函

要

頁

1566

一 鏡面量

一 寢臺ノ手摺

一 船室内ノ衣服格納所

一 書物棚

一 小鏡架ノ胴乱格納所

右参考ノ方ノ圖面ニ枚添付ス

海
目

1567

別表

甲号報知艦艇装部金屬製之改正スヘキ廉書

一下甲板以上

諸公室、寢室其他諸室諸倉庫、隔壁及棚板

昇降口、天窓其他諸甲板口

諸梯子 但階段、滑リサレ方法ヲ用ユルコト

舷門梯子 但手摺、木製又階段、滑リサレ方法ヲ用ユルコト

一端舟受、
蓋

一衣囊箱、衣囊棚 但腰掛兼用臺、木製

一食器棚

一手箱

一衣服函

毎頁

洗面臺

寢室ノ手摺

船室内ノ衣服拵納所

書物棚

小鏡架ノ胴乱拵納所

右参考ノ為メ圖面ニ枚添付ス

洋
目

1569

軍務局長代

第三課長

出陣艦艇整備向全属部、改良件、自軍力由三二、
号リ、以テ、上ト、建、修、修、件、ニ、至、急、心、ヲ、報、知、ス、ル、事、也、
二十八年四月十二日。

部長
横濱引合長

原簿五二六號一三

軍務局長

第三課長



横鎮の第三四八号ノ三ヲ以テ之ヲ提出スル所ニ
案向全属製ニ改ムル方案ニ付在リ候件ニ對シテ
より余至急ニ之ヲ取調リ申渡シ奉ル所也

大正二年三月二十日 局長

横鎮の司令官長友記

一 船室隔壁ハ艦長室等ニ於テ第二圖ノ如ク爲シ能

ハザルヤ

船室

一 方室第二項ノ隔壁ヲ論ズル内ニ此隔壁ヲ鐵製ニナシ
コークパイメントヲ塗抹シ以テ満足スル外ナカラスレトモ
次ニシロリングレノコトヲ論ズルニ當リシロリングレ其物ヲ

五二六號

五二六

解明し英國軍艦ニシテ之ヲ鋼製ニナシタスモノアリトアノミニ
止リ果メ鉄製ニ變更スルニ欲スヤノ意見多ク一兩号
（四号艦）ニ之ヲ如何スルニ計画スルヤ

一 第四國外艦梯子ノ手摺ハ木製ナシモ之ヲ真鍮管
ノ如キモノヲ以テ製スルコト出来ザルヤ

一 兵員用ノメッステール及ヒ「ベニチ」ロツカレハ金屬製
ニ為シ解リザルヤ

一 左記定備品類ヲ金屬製ニ為シ解リザルヤ

一 火災桶

一 洗濯桶

一 甲板洗桶

一 水涵桶

一 掃除具箱

第一問

一 船室隔壁ハ艦長室ト虽モ第二圖ノ如ク鋼製トナス
コトヲ得

第二問

一 シーリングハ既ニ鋼製トナシタル實例アリ隨テ丙號巡
洋艦ニアリテモ亦之ヲ鋼製トナスコトヲ得ベシ

第三問

一 外舷梯子ノ手摺モ亦金屬ヲ以テ製スルヲ得ベシ

第四問

一 兵員用「ツステーブル」「マンチ」及「ロツカル」等モ亦金屬製トナ
スコトヲ得

第五問

要
旨

一 火災桶、洗濯桶、甲板洗桶、水涵桶、掃除具箱、索屑箱以上、諸具モ亦敢テ金属製トナスコトヲ得

要之專ラ戦闘上ノミニ関シ考察スルキハ以上列記スル如ク悉皆鋼製トナシ敢テ支障ナキモノ、如シ

第一関

一船室隔壁ハ艦長室ト虫モ第二関ノ如ク為スコト能
ハサルニアラズト虫モ斯クナス片ハ外見甚ダ粗ナルヲ以テ極
ノテ小ナル艦船ニ在リテ可及的重量ヲ減ゼンコトヲ望ム
モノニアサルヨリハ第一関ノ如クスルコトナラン

第二関

一ジョーリングハ鋼板ヲ用ヒタルモノナキニアラザルモ原素金屬
ハ寒暖ニ感スルコト急激トレバジョーリングヲ鋼製ニ為ス片
ハ船外ノ寒暖忽チ内部及ボシ船内ニ住居スル將校
兵員等ノ健康上著シク影響アルベシバ從前ノ如ク
木製ナルヲ可トス
但シ將素善良ナル保温塗料ノ發明アリテ木材ト等シク容易ニ寒熱ノ感受
セサルモノヲ得ルニ至レバ鋼製トナスヲ良トス
丙号巡洋艦ニ在リテハ前述ノ意見ヲ以テジョーリングハ

一頁

悉皆木製ニナスノ計画ナリ

第三問

外舷梯子^子指ハ金屬ニテ製シ得ルト雖モ冬季嚴寒ニ

際シ昇降者ノ不便アルベキニ付手摺ヲ巻クニ綱或ハ布ヲ用

フルヲ要ス隨而製造費幾カカ出高ムハシ故ニ寧ロ木製ニ

ナス方適當ト思考ス兩シテ木製ニナスモ夫カ為ニ火災ノ患

ニ大ナル影響有テ及ボサルベシ

第四問

一兵負用ソツステール^ル「ベンチ」及「ロツカル」等モ又金屬製ト為シ

輕ハサルニアラザルモ「テーブル」^ン「ベンチ」ハ現今使用ノモノモ上板壹枚

ノミ木板ニシテ其他ハ皆金屬製ナリ若シ此上板ヲ金屬製

ニ改ムル中ハ是亦兵負ノ身体ニ觸ル、モノナレバ為ニ害ヲ生スル

アルベケレバ從前ノ如キモノニテ可ナラシ「ロツカル」(衣囊棚)ハ現

今鉄製ノモノヲ用ヒアリテ金屬製ヲ良トス但シ「ベンチ」ト
衣籠箱トヲ兼ネ用フルハ都テ木製ナルヲ良トス併シ目下新
ニ製造スル艀船ニハ「上ノ」カキ「ベンチ」ト併用ノモノナシ

第五問

一火災桶、洗濯桶、甲板洗桶、水溜桶、掃除具箱、索屑箱
是等モ亦金屬ニテ製シ能ハガルニ「アラゲル」モ木製ヲ良トス
且ツ大抵皆上甲板ニ在ルモノナレバ設令「奈火」スルモ直ニ
消滅セシムル「容易」ナルベシ

要之艀船内ニ全然「奈火」ノ虞ナカラシムル「能ハガル」ニ「アラ
サル」モ依テ生ズル所ノ「工事」上ノ困難「アル」ノミナラス「衛生」上ノ「関
係」モ「アル」ベシト思ハル、ヲ以テ「熟々」其利害ヲ考量シテ「金
屬」製ヲ可トスルモノ「ニ」テ改メ餘ハ「従前」ノ如ク木製ニセシ
「可ナル」が如シ且ツ「隔壁」ニ「鉄板」ヲ用ヒ一旦「奈火」ノ「災」アル

其害ヲ一小局部ニ止メ大火ナキニ至ラシムルヲ以テ現時ノ
最良方案トスルガ如シ

以治
軍

1580

軍務局長



第三課



横領第二四八號ノ五

西号也洋紙張甚多厚紙類ノ改訂ノ我
了野ニ五六号ノ可也同官ノ題了也
一重層ノ紙ヲ丸捲五上ノ以テ抄録上ノ以
内ノ改訂又ノ費之我ハ既ニ陸軍
内ニ支弁ノ得ん又ノ也
也

此ノ紙類ノ改訂ノ事

此ノ紙類ノ改訂ノ事

此ノ紙類ノ改訂ノ事

此ノ紙類ノ改訂ノ事

軍第三五六號ノ三

海軍

丙号

軍務局長

第三課長



横鎖第二四八号ノ三ヲ以テ乙号及丙号ニ併シ
 船装一我ノ自ラ意見ヲ提出スル事ニ知ル所也
 洋船ヲ都テ之ヲ見ル通リ金屬製ニ改正
 するに千ハ重量ニ於テ少ク何種ノ変更ヲ求ム
 事又製造運費ハ既定豫算内ニ支弁シ得ル事
 或若シ増額ヲ要スルモノトシテ其金額並約略
 右至急ニ考査スル所也

大正八年三月一日
 局長

横鎖司長

三五六

五

乙多及丙号四洋艦解表之

拜之日意見見申

昨筆青官房第三三七三号前迄ニ至キ且下割表法申、四洋艦解
表其他未詳、個所ヲ可成金屬割表ニ改正ス、乃按有取調候
如木割表ヲ故人製割表ニ代ヘ得、キ部分別紙比載ニ通、レテ
尚考案リ要ス、元ノ妙カクモ候得共目下割表法申、四洋艦
割ニ凡ソ夫、個所ヲ筆屬割表ニ改正、可成候存候
各室及各名表ニ應、ノ隔壁

但所傳不申板上シ、ア、七ノ

コレバニヨレ及スカイ、ライト

諸様子



靴、椅子、洗面台、寢台、履器棚、手箱、今更下、

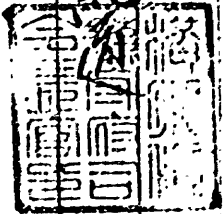
小鏡掛、

然、乙等洋船、客室隔壁既、若落或漏、有之、今之、
取外、銀板判、致、候、片、其、材、粉、日、海、外、注、文、之、等、
大、時、日、要、之、落、或、漏、之、因、候、片、今、後、之、修、繕、等、
候、時、候、際、之、致、送、ノ、事、之、致、し、可、然、且、其、他、部、分、既、
之、落、或、漏、ノ、事、多、有、之、候、片、此、際、椅子類、之、座、座、割、
之、致、大、可、然、故、存、候、而、一、兩、号、之、洋、船、之、對、之、人、都、之、前、
化、之、個、所、金、屬、割、之、致、大、可、然、故、存、候、此、段、意、見、具、
申、候、也、

明治二年八月二十七日

横須賀大船守司長菅村浦紀

海軍大臣御前 西郷從道殿



画面四枚添

艦船製造ニ可成木材ヲ使用セサル方案

従来艦船製造ニ木材ヲ使用シ来リシ個々ハ大凡大ノ如シ

諸甲板及プラットフォーム

艦橋

船室隔壁及レリーング

諸倉庫

火薬庫及弾庫

コンパニオン及スカイライト

梯子、机、椅子、寝臺、洗面臺、倉庫棚、手箱、小

鏡掛、テレスト、等、艦船附属物及需品

マスト及ヤード

端船

二枚
一頁

就中火災ヲ起スノ憂アルモノハ水線以上ニ在ルモノミナルヲ以テ
火藥庫及倉庫ノ如ク防禦甲板下即船艙ニ在ルモノハ茲ニ
論スルノ必要ナレトス其他ノ個処ニ在リテモ或ハ製造上ノ困難
或ハ艱難自ノ要係或ハ使用上ノ必要アリ木材ヲ用フル方
適當ト信セラルモノアリ要スル処ハ水製表ニスルノ利益ト之ニ伴
フ大災ノ恐レト何レカ重キカヲ量ルニアリ今前ニ答ケタル個
案ニ就キ一々取調ゾレバ

一 甲板

甲板ニ目下般般ニ使用スル木材ノ最大部ヲ占ムルモノニシテ
通例其全重量ノ七割及至八割ニ当ルヲ以テ此問題ニハ最
モ重要ナル關係ヲ有スルモノナリ抑モ甲板ニ木材ヲ使用スルノ
要ニハ歩行ニ便ナラシムルト一ハ甲板下ノ船室ニ外部ノ温度ヲ
易ク傳導セシカラシムルニ在リテ此二ノ利益ヲ併有スルハ木材ヲ

除キテ他に適當ノモノヲ見出ス能ハサルナリ
 唯リノレヲムアレト保存期限甚ク短ク且頗ル高價ナルヲ以テ
 上甲板用ニ適當スル中甲板及下甲板ニ使用シ得ん事ト思
 考スレト實地研究ヲ經サレハ明言シ難シ
 然ルニ黃海ノ戰ヲ經タル我軍艦ニ依テ徵スルニ甲板ニ傳火
 セレ箇処ハ殆ント皆無ニシテ船室隔壁オニ以スレハ遙カ
 ニ危険少キカ如シ殊ニ近來ノ軍艦ニアツテハ甲板ハ概ネ
 薄キ鋼板ヲ張り其上ニ木板ヲ取付クルカ故ニ比敵等旧式
 ノ艦船ニ於ケルヨリハ一層傳火ノ虞少シト信ゼラル之ヲ以
 テ考フルニ水裂甲板ノ害ハ其利寧口必要ニ打勝ツヘキ
 勢力ナキニ似タリ
 然レトモ右ハ只本島比敵兩京丸等ノ破損個処ヨリ
 論ビタルモノナレバ未ダ以テ完全ナル結論トハ稱シ難シ聞

要
 旨

夕所ニ依レバ遠及來遠ノ如キ其甲板概ニ燒失シ梁
ハ燒曲シテ用取ヲ存セストノ趣ナレハ此等清國ノ船舩ヲ取調ス
レハ如何ナル利益ヲ放擲シテモ木材ヲ全廢スベシトノ断定ヲ下
リルヲ得サルニ至ルヤモ計ラレスト虫詳細ノ報告ヲ得んマテハ
暫ク前述ノ結論ヲ以テ満足スルノ外ナシトス

船橋ハ木板ニ代フルニケレリケシケラ用フルモ妨ケナレ現ニ米
國軍舩ハルチモアルノ如キ中一例ナレ凡何レニシテモ大差ナレ

二 船室隔壁

船室隔壁ハ比叡ホク於テ最モ木材ノ不適当ナルヲ認メ
タルヲ以テ大ニ改良ヲ施スヘキモノナリト信ス依テ第一周及カニ
周ニ示セル構造ヲ発意セリカハ少ク木材ヲ使用スレ
モ亦ニ以テハ外見勝レルヲ以テ船長室等裝飾
要スル個処ニ適シカニ製造少シク困難ナレ凡殆ド

木材ヲ全廢シ得ルヲ以テ他ノ諸室ニ応用セルト
 ス詳細構造ニ至リテハ圖面ニテ明ナルヲ以テ別ニ説
 明ヲ付セス扱而右ノ如ク總テ隔壁ヲ鉄製衣ト
 セハ衛生上ニ及ホス關係ハ如何之レ別ニ思考ヲ要スヘ
 キモノナリ抑モ木柱ハ熱ノ不導體ナルカ故ニ之ヲ以
 テ包圍セラレタル室ハ外氣ノ溫度ニ感染スル
 少シ是レ實ニ隔壁ニ木柱ヲ用フルノ主眼トスル処ナ
 ルヲ以テ之ヲ全廢セントスレハ之ニ代フルニ適當ナル保溫
 材料ヲ發見セサルヘカラス水雷艇ノ經驗ニ徴スルニ寒
 暑ヲ防クニ於テ「リ」レヲムノ功能甚タ大ナルカ如ク之ヲ貼
 付セル室ハ通常ノゴロクペイントヲ用ヒタル室ニ比スレバ夏
 時ハ六七度涼ク冬時ハ六七度温ク加之水蒸氣ノ凝結
 ヲ防クニ大功アリト云フ然レモ其可燃性ニ付テ簡易ナル

每
 頁

試験ヲ施シタルニ木材ニ比シテハ大ニ勝レルカ如シト雖全ク不
 可燃物ニ非サルヲ以テ未タ以テ完全ナル材料トナスヘカラス
 英國ニテハ既ニ一種ノ保温塗抹法ヲ用フル由ナレ氏今尙
 取議中ナルヲ以テ未タ充分ナル報告ヲナス能ハス若シ適當
 ノ材料ヲ見出ス能ハサレハ通例ノコルクペイントヲ以テ満足スル
 外ナカラシコリリンググロトハフレームノ内側ニ張りタル薄キ木板
 ヲ云フ英國軍艦ニアツテハ既ニ鋸板ヲ以テ之ニ代用ヒシモ
 ナリ其寒暑ニ関シテノ不利ハ隔壁ヲ論スルニ方リ述ベテ
 ル所ニ同シ

三 コンパニオン及スカイライト

コンパニオン及スカイライトハ目下既ニ鋸板及テ造ルアリ
 別ニ差支ナキヲ以テ以後ハ悉皆鋸板トスベシ

四 櫺子

梯子モ亦鉄製トスルノ極ノテ易ク目下鉄製ノモノ既ニ多ク
使用シ居リ第四圖ハ外舷梯子ヲ鉄製ニスルノ方案ナリ楯
段モ皆鉄板ヲ以テ造リ敷キ小孔ヲ穿テ中ニ護謨ヲ嵌
入シ以テ昇降ニ便ナラシム他ノ梯子モ畧同一ノ構造ニスル
ヲ得ベシ

五机 椅子 洗面台 寢室 倉番棚

手箱 巾着 小鏡掛

是等モ薄中鋸板若シクハ亜鉛板ヲ以テ製スルヲ得ベシ其一
ニテ示シシガタノ第三圖ヲ製ヤリ尤モ小鏡掛ハ第一圖ヲ
見ルベシ

六マスト及ヤード

ロワーマストハ無論鋸製ナルヘクトップマスト及ヤードオハ製衣
造上ノ便宜ト火災ノ憂少キヲ以テ迄来ノ如ク木製ニスル方

一
二

至当ナラン

七端船

鉄製ノ端船ハ商船ニハ備付タルモノアルヲ見レド若石等
 ニ抵觸スレハ破損シ易ク破損スレバ修理シ難キトノ二大不
 利アルニヨリ使用繁キ場合ニハ不利ナルベシ然レド近來二枚
 ノ鋼板ヲ打出テ造ル端船アリ其結果善良ナラカ
 且小蒸氣船ハ往々鉄製ナルモノヲ用ルアリ故ニ適當ナ
 ル構造ヲ施スニ於テハ將來鉄製ニ改メ得ベシト信セラレ
 重量ノ点ニ在リテハ別表ニ示スガ如ク鉄製ノ方亦製ヨ
 リ重キト平均一倍半即チ百餘巡洋艦位ノ大サニテ
 十噸乃至十五噸ノ増加ヲ来スノ見込ナリ然レド近日各其
 横機軌ヲ製造セントスルニヨリ實際ノ重量ハ之ヲ他日
 ノ報告ニ譲ル

明治廿八年二月

山口海軍大技監

小幡海軍大技士

近藤海軍大技士

白井海軍少技士

原

1593

	第一及第三箇、構造		第二箇構造	木製
	3/4 ¹⁸⁵ 及5/7 ¹⁸⁵ ヲ用ユ	2/2 ¹⁸⁵ 及3/4 ¹⁸⁵ ヲ用ユ		
寢臺一個	260 ^k	190 ^k		100 ^k
書棚二個	45	30		29
机一脚	90	60		54
外套掛一個	98	80		25
洗面臺一個	56	50		13
	549 ^k	410 ^k		221 ^k
内板 (一室分)	97 ^k	74 ^k		65 ^k
外ニリルヌ ^k	6	6		
寢室仕切 (一室分)	220	110	73	86
外ニリルヌ ^k	11	11	22	
障壁 (一室分)	270	110	98	83
外ニリルヌ ^k	6	6	6	
	610 ^k	317 ^k		234 ^k
小鏡掛 (+塙分)	30 ^k	17 ^k		28 ^k

1595